

## Use Case Collection

# 利用企業事例集

～スタートアップを活用したリスキングによる中小企業デジタル化支援～



# Case 01

## 行き詰まっていたDXの環境整備が激変 新しいツールの浸透で情報共有もスムーズに



富沢印刷株式会社 (窓口担当者様: 印刷部製本課 山田 秀明 様)

業種 製造業

企業紹介 1960年に創業し、印刷物全般(デザインから印刷・加工・納品まで)、動画制作編集、オンライン配信など印刷物だけではなく動画制作も展開。

### 富沢印刷株式会社

<https://10330.co.jp/>

### 受講講座

DXリテラシー・DX人材育成基礎コース

業務改善Excel+RPAツールハンズオンコース

製造業特化AIジェネラリストコース

業務をアプリ化する初心者向けノーコードツールの基礎講座

企業DX担当者・伴走者育成とノーコードツール構築講座

Excelデータ活用スキル習得講座

#### 受講前

国の補助金で新たにノーコードツールを導入したもののうまく運用できず、社内は既存のツールで十分だという認識のままだった。

工場見学や入稿予定などの社内情報の共有は、個人間での手渡しやメールで非効率的だった。

#### 受講後

ノーコードツールの知識が身につく、担当者から運用方法を発信したことで、3か月後にはどの社員も使いこなせるようになった。

社内の情報を全員へ一斉通知、内容の見落としがなくなり一元管理も可能になった。



印刷部製本課 山田 秀明 様



総務部 渡邊 舞 様

### 国の補助金で導入したツールを活用しきれていなかった

山田様: 私は印刷部製本課で副工場長として働いていますが、2024年9月に新設されたDX部のリーダーも兼務しています。受講前に課題として感じていたことは、ツールの活用方法でした。すでに社内では、ノーコードツールの「kintone」(以下、ノーコードツール)を国の補助金で導入し、DXの推進に取り組んでいました。しかし、ノーコードツールを使ってアプリを作れるようになったものの、その機能は限定的なものになりがちでうまく活用できず、社内に浸透しないという状況が続いていたのです。このほかにも、既存の印刷用ソフトウェアとの連携をどうすればよいか、自動化をしたくてもその知識や経験がなかったことも課題でした。

### 行き詰まっていたDXの推進が受講の原動力

山田様: 結局ノーコードツールを活用しきれないまま、導入サポート企業との契約期間が終了してしまい、あとは自社で対応するしかない状況になってしまいました。私が、社内の担当窓口を引き継ぐことになったのですが2ヶ月間ほど手をつけられず、どうしたらよいかわからず途方に暮れていたタイミングで、本事業を知り受講を決めました。

渡邊様: 私はExcelデータの活用講座を受講しました。昨年度までオンデマンド印刷の部署にいてExcelを使うことが多かったことと、総務部の業務で扱っているデータを活用したいと思っていたことがきっかけです。抽出したデータを元に、「A社の受注は前年より30%落ちている」など取引先の状況をグラフ化したり、課題の要因を見つけたりして、業務で扱っている数値を営業部にフィードバックできるようになりたいと考えていました。

### 社内の雰囲気が大きく変化、業務の見える化で情報共有もスムーズに

渡邊様: Excelのデータ活用講座は、初歩から応用へステップアップしていく内容でした。私はExcelを独学で習得したので、初歩的な内容でも知識の再確認ができましたし、応用的な内容は社内での活用方法をイメージしながら学べました。10分程度で区切られた動画講座だったので、業務中に合間をみて無理なく受講できたこともありがたかったです。

受講ペースが落ちると事務局からリマインドメールが届くため、常にスケジュールを確認しながら緊張感を持って取り組みました。社内全体でいうと、業務の見える化ができるようになったことが大きな変化ですね。例えば、今までは、入稿スケジュールや工場見学に来社される企業の情報共有はメールや文書による通知だったため、伝え忘れや見落としもありました。しかし、ノーコードツールで共有するようになってからは、情報を入力してボタンを押すだけで社内全体へ一斉通知ができるようになり、一元管理も可能になりました。営業部の外回り報告においても所定の書式にまとめて、紙で上司へ報告する形式では監視されているような感覚が生まれがちですが、ノーコードツールを使った報告だと適切な距離感になり、業務の見える化も実現できています。

山田様: 私は、ノーコードツールの細かな操作方法や運用方法を学べたことで業務管理アプリを作る視点が広がったと感じています。操作しにくい部分を別の機能を取り入れて改善するという発想ができるようになったので、実際に使い勝手もよくなってきています。新しいツールの導入は私自身も含め、当初は抵抗があった既存のツールで十分という思いもありました。しかし、改善を繰り返して情報共有を重ねた結果、今ではなくてはならないツールとなっています。

### 個人の学びから組織の力へ、広がる活用の可能性

山田様: DX課は各部門から兼任でメンバーが集まっており、週1回のペースで操作方法などを情報共有する機会を設けています。共有した情報は各部門へ持ち帰り、部内でも展開していたため、受講を始めてから、社内では「業務管理アプリの相談をしたい時はDX課の兼任メンバーに聞けば大丈夫」という認識が浸透してきて、この3~4か月で雰囲気が激変しました。1社で複数の講座申し込みが可能だったため同時に5名が受講できたことで、スピード感を持った社内変革につながりました。まだ講座は受講途中ですが、修了後に社内全体へ発表する機会を予定しています。

渡邊様: 受講した知識をアウトプットすることは、自分のためだけでなく他の社員や会社のためにもなります。全ての内容を活用できなくとも、必ず抱えている課題に対する答えが得られるはず。もし業務で困っていることがあるけれど改善策がわからないという企業のみなさんには、業種を問わず本事業の利用をおすすめしたいです。



佐藤電研株式会社 (窓口担当者様：生産管理 佐藤 駿吉 様)

業種 製造業

企業紹介 1948年に創業し、舞台照明やスタジオ照明の反射鏡を製造。現在はバフ研磨だけでなくヘラ絞りやサンドブラストも行っており、一貫生産体制で高品質・低価格を実現。



<https://www.s-denken.co.jp/>

## 受講講座

製造業特化AI ジェネラリストコース

### 受講前

- ❗ 職人の高齢化や技術の属人化が進み、新たな職人の育成が困難だった。
- ❗ 図面や加工データ、製品見本などを紙媒体や個人のPCに記録。社内共有に悩んでいた。

### 受講後

- ✔ 職人の作業風景を動画で撮影し、技術の可視化を推進。口頭説明が難しい技術や操作方法を効率的に伝えられるようになった。
- ✔ 図面や加工データ、製品見本、作業動画などを一元管理できるシステムを導入し、情報共有がスムーズに行えるようになった。



生産管理 佐藤 駿吉 様



## ✔ 最年少は50代。若手への技術継承が急務

私は主に生産管理を担当しているのですが、小さな町工場なので生産管理の他に経営全般にも関与しています。受講を考えるきっかけになったのは、当社の職人の技術継承に課題を感じたためです。私は会社を継ぐために2年前に戻ってきたのですが、その前は父からの勧めで取引先の会社で3年間働いていました。そちらの会社では当社製品の後工程を学ぶことができました。前職での経験を経て当社に戻ってきたわけですが、やはり最初は技術的なことがわからずに危機感がありましたね。同時に技術を自分だけが吸収するのではなく、誰にでも伝えられるようにしたいという思いもあったのです。

また、私が入社した時点で社内の最年少が50代と高齢化が進んでいたのも受講を決めた理由の一つです。中には定年を迎えて、嘱託社員のような形で会社に残っている方もいるような状態だったのです。職人の技術で成り立っている会社なので、この技術をどうにかして次世代に繋げなければならぬと感じました。ただ、当時の技術継承の方法は、いわゆる「見て覚える」形式だったので、どうしても時間や手間が掛かってしまいます。特にヘラ絞りという技術は、データをセットすればその通りに機械が動くというわけではなく、職人の手加減や経験によるところが大きい作業です。これらの技術を口頭で教えるのは難しいと思い、AIの導入も検討したのですが、費用対効果が気になって躊躇していたというのが実状です。それでも何とか現状を打開し、より効率的に技術継承できる方法を模索しようと思ったのが受講のきっかけになりました。

## ✔ 基礎から専門へ、製造業特化の講座に興味

今いる職人の技術を効率よく次世代に継承する方法を知りたかったのはもちろんですが、今後社内のDXを推進していくにあたって、ITに関する知識を深める必要があると感じていました。もともと、個人的にIT分野に興味があり、積極的に学びたいという意欲があったのも受講を考える要因になりましたね。本事業を利用したのは、以前別の事業でリスティング講座を受講し、より実践的な知識を身に付けたいと思っていたことがきっかけです。

事前の面談でさまざまな講座をご紹介いただいたうえで、今回はより難易度の高いものを受講したいと考えていました。

## ✔ 「共感」から「実践」へ！AI活用による技術伝承へ

講座は基本的にオンデマンドによる動画視聴だったのですが、一日だけリアルタイムで他の参加者の方々とディスカッションする回があったのです。その場で、他の製造業の方の話や「同じようなところに悩んでいるのだな」「こんなところに課題があるのだな」などの発見ができました。当社のような小さい町工場でも課題を解決するためのいろいろな知識や技術を学べたことに意義がありました。

実際に受講で得た知識を基に進めているのが、図面管理システムの構築です。クラウド型のシステムで、ブラウザだけで動かせるので、パソコンがあれば誰でも使えます。どこからでもシステムにアクセスできるので、図面や製品見本の写真、加工風景の動画などを格納したり、図面に加工機などのプログラムデータを紐付けたりすれば、製造に関する必要な情報を一元管理できます。今はまだ図面を取り込んで整理している段階ですが、図面がまとまっているだけでも検索の手間が省けるようになりました。これまでは製造にあたって必要な情報を紙で書いて職人に渡したり、発注データを確認しに特定のパソコンからアクセスしたり等の手間が掛かっていました。それに比べると、今ではかなり効率化が進みましたね。

また、今後はAIを使った動きの予測なども採り入れたいと考えています。口頭や動画では伝わりづらい、職人が感覚や経験で行っている機械加工作業のデータを収集して、そこから加工の動きを予測できるようなAIシステムを組めれば、技術継承もよりスムーズに進むのではないかと期待しています。

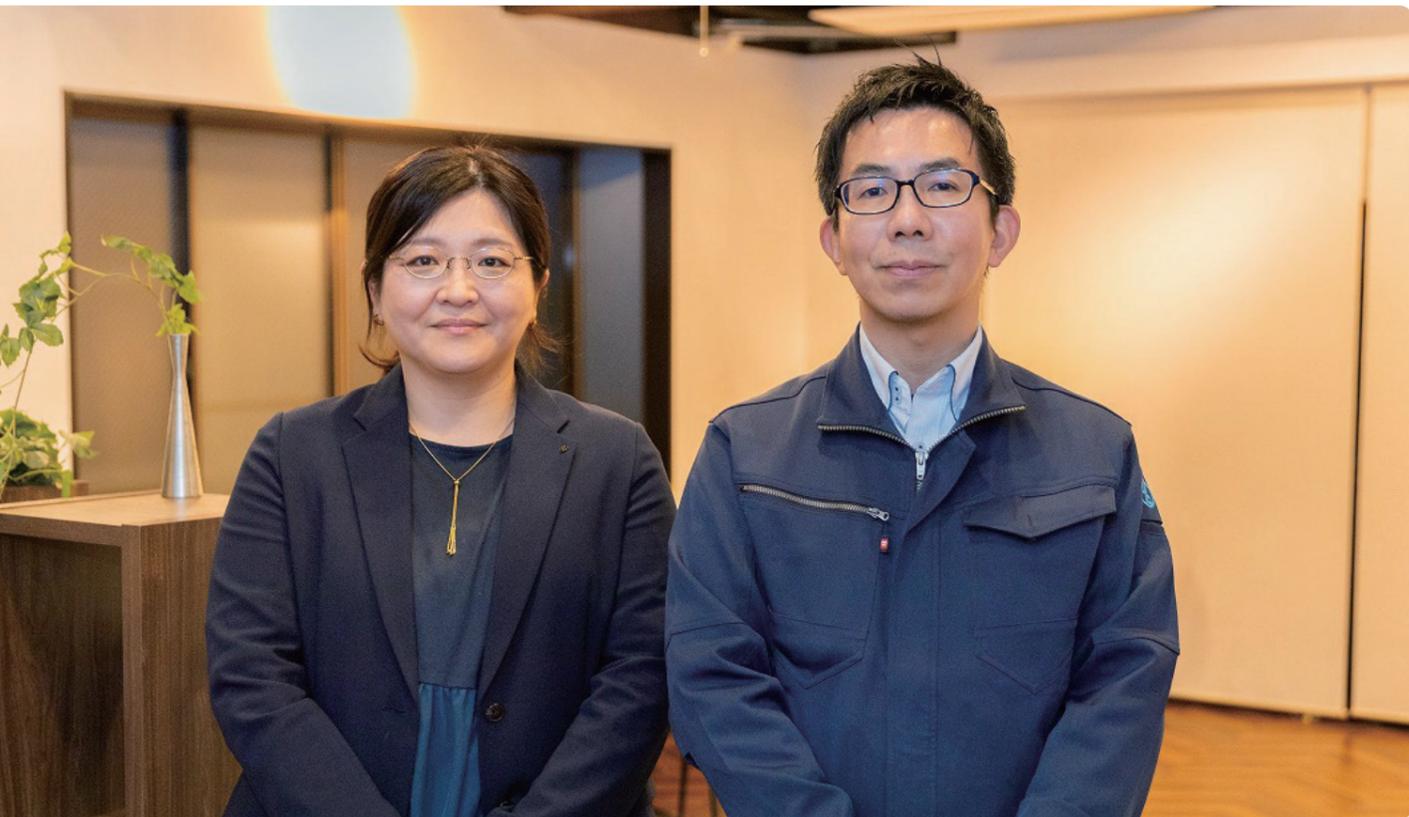
## ✔ 協力工場との連携。技術のバトンを繋ぐ未来

現在協力いただいている工場でも、当社と同じように今の代で最後、というところが結構多いのです。長年継承されてきた技術やノウハウが途切れてしまうのはもったいないことなので、なるべく当社で設備を買い取るなどに対応していきたいですね。もちろん、最新の機械を使えば同じものを手軽に作ることは可能です。ただ、当社は創意工夫でコストを抑えてきたという自負がありますし、物価が高騰している今、最新の設備を導入するにはかなりのコストが掛かってしまいます。今回リスティング講座を受講したことで、システム導入による情報共有化や、AIを使った作業効率化など、新しい方法を模索する良いきっかけになりました。

本事業は講座の種類がたくさんあり、その中からそれぞれの会社にあったものを選ぶことができるので、少しでもDXに興味があったり、学ぶ意欲があれば積極的に受けるべきだと思います。

# Case 03

## 本事業をきっかけにAIの社内活用が現実的に「チャットボット」の導入で、業務効率化を目指す



**裕幸計装株式会社** (窓口担当者様・経理部 米田 秀史郎 様)

**業種** 建設業

**企業紹介** 1963年に創業し、オフィスビルを中心とした建物における電気・空調・セキュリティなどの自動制御システムの設計・施工・メンテナンス事業を展開。



### 受講講座

《対面講座有り》座学と実践で学ぶAI! お客様ごとの実務課題を短期間で解決! 中小企業向けAI入門講座

DXリテラシー・DX人材育成基礎コース

ゼロから始めるExcelデータ分析・統計学講座

#### 受講前

- ❗ 社内AIへの関心が高まってきており、学ぶ機会を探していた。
- ❗ 業務でAIを活用する具体的な方法がわからない。
- ❗ 社内他部署からの同様の問合せに対し、AIを活用して効率化を図りたい。

#### 受講後

- ✔ AIに関する基本的な知識を習得。今後も社員全体に向けてAIの研修受講を推進していく。
- ✔ AIの特性を理解し、どのような業務に活用できるか明確になった。
- ✔ AIチャットボット等の問い合わせ回答自動化を検討中。



経理部 米田 秀史郎 様



総務部 葛西 茜 様

### ✔ AIへの関心が高まっていたが、理解が追いついていなかった

当社は、2025年で創業62年目を迎え、2024年4月に社長が代替わりしたことをきっかけに、DXに積極的に取り組むこととなりました。社内ではAIへの関心が高まっており「日々の業務の課題をAIに助けてもらえたら」という漠然とした期待もありました。しかし、新しいものを取り入れようと思っても、具体的な方法がわかりません。私たちは普段の業務でAIは使っておらず、仕事で活用したいと思ってもどうしたらよいか検討がつかなかったため、まずはAIを知るところから始める必要がありました。そんな時に本事業の存在を知り、数ある講座の中から私たちのニーズに合った初心者向けのAI講座を選びました。講座の受講については、こちらから押し付けることはせず、意欲のある社員から選ぶことを重視した結果、様々な部署から10名を超える希望者が出て、社員の学習意欲の高さが見えました。

### ✔ 費用を抑えて、自社に合った講座を受講できる

本事業では会社のニーズに合った講座を受けられます。特に中小企業にとっては、研修を実施したくても費用対効果を考えると踏み出しにくい面もありますが、1社あたり100万円まで無料で受講できる点はとても魅力的でした。また、事務局と面談の上、複数の講座の中から受講講座を選ぶことができたので大変助かりました。講座では、まずAIの基本的な知識を動画で習得した後、対面研修の中で、社員同士がそれぞれの業務の中で何にAIを活用できるか話し合い、AIの専門家の講師の方と一緒にそれが本当に実現可能かを精査していききました。また、講座を受講した他部署の社員からAIで何を解決したいのかを聞くことによって、その部署の困りごと等の現状を知ることができ、課題を共有できたのは大きな収穫でした。講師の方は、親身に話を聞いた上で具体的かつ実践的なアドバイスをくださったので非常に納得感がありました。参加した社員は積極的に質問を投げかけ、講師の方も一つひとつ丁寧に答えてくださり、時間がオーバーしてしまうほど活発な議論が行われました。受講した社員はみんな楽しそうで、非常に充実した時間になったと感じています。

### ✔ AIに頼れる仕事、そうでない仕事が明確に

当初は、漠然と困っているからAIに助けてほしいという気持ちがあったのですが、講師に相談すると「この業務はAIは苦手なので、Excelでマクロを組んだ方がいい」など、具体的なお話をいただきました。AIに任せられる仕事とそうでない仕事が明確になったのは、良かったです。また、講座の受講をきっかけに、生成AIサービス(ChatGPT等)を積極的に使うようになりました。調べたいことがあると、今まではWebで検索していたのですが、全て生成AIサービスに聞いています。Webで検索すると様々な記事が出てきて、それらを1つずつクリックして内容を確認するのは大変ですが、生成AIサービスに聞くと集約したものを回答してくれるので非常に便利です。AIを活用する障壁がなくなったのも受講のメリットであると感じています。一方で、生成AIサービスは曖昧な質問でも答えてくれますが、それでは望む回答が引き出せないこともあります。講座では、どのようなプロンプト(ユーザーが入力する質問)を打ち込めば的確な回答を得られるか学べたので、今まで以上にAIを使いこなせるようになりました。もちろん生成AIサービスの回答が全て正しいとは限らず、全面的に信頼できるわけではありませんが、それでも業務の効率化につながっていると実感しています。

### ✔ AIの活用で社内業務の省力化を目指す

業務上の課題のいくつかは、AIを活用することで解決できることがわかりました。社内他部署から似たような問い合わせがあることも多く、同じことを何度も回答するのは効率が悪いと感じていました。こうした課題に対して、例えばAIチャットボットを導入することで、問い合わせに対して自動的に回答してくれる仕組みが作れることを学んだので、引き続き自分たちで勉強し、業務のDX化を進めていきたいと考えています。AIを導入するとなるとハードルが高く感じますが、講師の方から費用面も含めた具体的な導入方法までご案内いただいたおかげで、他の課題の解決に向けても、スムーズに動き出せそうです。AIを活用することで人手が足りない部分が補えるのではないかと期待しています。

Case  
**04**

**少人数の企業だからこそDXをフル活用  
自動化で人材を活かし会社の信頼を守る**



総務部 池内 和代 様



**株式会社EP** (窓口担当者様: 総務部 池内 和代 様)

業種 製造業

企業紹介 2014年に創業し、モノづくりに関してデザインから製品開発まで柔軟な対応力でサポート。  
2024年より自社製品の開発事業をスタート。



<https://eprobot24.com/>

**受講講座**

《対面講座有り》座学と実践で学ぶDX!システムによる貴社の業務効率化を体験!中小企業向けDX入門講座

**受講前**

- ❗ 業務効率化の手段を模索していた。
- ❗ DXの必要性を感じていたが、デジタル化に頼ることに不安もあった。
- ❗ 人材だけではいずれ大きなミスが発生するのではないかという恐怖心を抱いていた。

**受講後**

- ✅ 人頼りではなく自動化で業務効率化する視点がわかった。
- ✅ 初めて使うDXツールでも、抵抗なくイメージや操作ができた。
- ✅ 何を自動化できるかが見えるようになり、業務に楽しく取り組めるようになった。

✔ **新規事業によって発生した新たな業務、自動化は避けられない状況に**

医療機器や事務用品、玩具など、さまざまな企業の製品開発を請け負う当社で、私は総務、経理、法務といったバックヤード業務を主に担当しています。日々の業務では、帳票などの確認にかかる工数の多さに課題を感じていました。同じことを毎月繰り返す度に何とかしたいと思っていたのです。さらに、新規事業の立ち上げに伴い、物流や在庫管理、ユーザー様への対応といった今までの事業では発生しなかった業務が増え、いよいよ自動化システムを導入せざるを得ない状況になっていました。

✔ **いつかミスが発生するという恐怖心、システム導入で会社の信頼を守りたい**

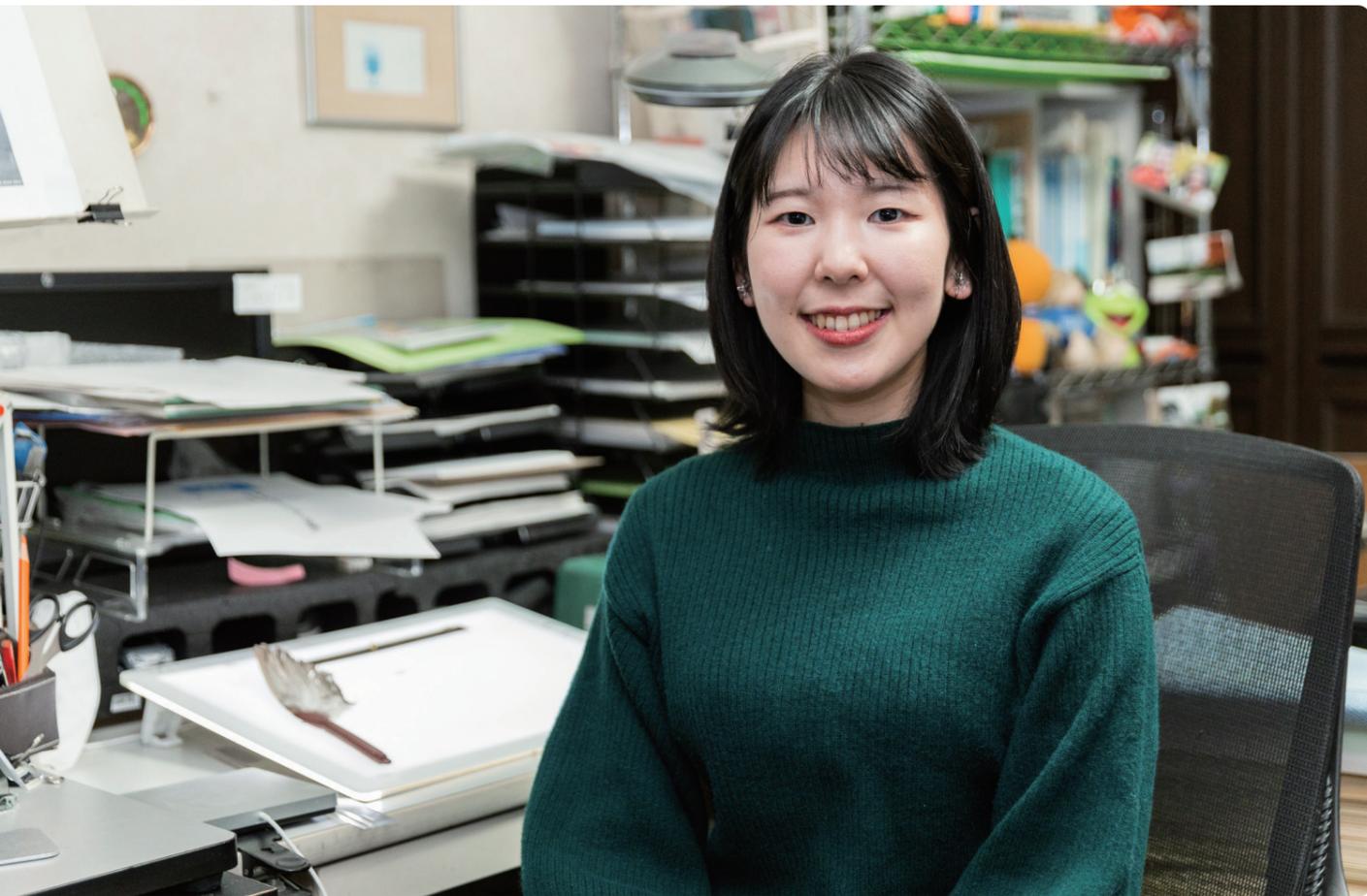
新規事業によって、新たな販売ルートが発生し、取引先だけでなくユーザー様と接する機会も増え、業務範囲が広がりました。対応方法を個人の判断に委ねていると、いずれどこかでミスが起こるのではないかと恐れていました。ひとつのミスは企業の信頼を失いかねません。ミスを起こさないためにも、システムを導入して業務を自動化したいと感じていたタイミングで、本事業のリーフレットを目にしました。これまでの業務でExcelやWordを取り入れていましたが、DXに関しては初心者だったので、講座の受講に対して不安がありました。ただ、受講前に事務局との事前面談で販売管理や生産管理を自動化したい、ユーザー情報を管理したいといった課題を相談できる機会があったため、適切な講座をじっくり選択することができました。今回受講した「中小企業向けDX入門講座」は、オンデマンドだけでなく対面のワークショップが充実していることも魅力的で受講を決めたのです。

✔ **とにかく楽しい、見える世界が変わる!DX初心者でも業務に活かせることばかり**

DXに関しては全くの初心者ですし、これまでExcelの計算式でさえ合っているか見直すなど、デジタルツールに頼ること自体に不安がありました。ただ、受講を始めたら、楽しさを感じるようになってきたのです。講師の方のサポートが手厚く、初めて使うPower Automate Desktopも操作方法や自動化された後の動作画面を示していただいたおかげで、操作の全体像が見える化され、ほとんど抵抗感がありませんでした。また、さまざまな用語を知ることで、これまで素通りしてきたデジタル関連の話題も意識するようになり、まるでモノクロで見ていた世界に彩りが生まれた感覚です。受講のきっかけは新規事業によって業務の自動化を迫られたことでした。しかし、次第に「請求書の管理でも使えそうだな」と総務の視点でも捉えながら受講するようになっていたのです。開発などアイデアが必要な業務はまだ自動化は難しいかもしれませんが、数字を扱う、処理する、といった作業的な側面が多い総務の業務では、自動化できる場面が次々に浮かびました。業務自動化のために受講しましたが、会社全体を見つめる良い機会にもなりました。

✔ **小規模企業の人材が最大限に輝く環境をどんどん構築したい**

規模が小さい会社のため、人的リソースはあまり多く割けません。作業にかける時間も限られています。今回受講したことで、どの業務を外注して、どの業務を自社で行うべきか判断する基準も身についたので、より社内の人材活用が高まると期待しています。今後は、本事業で得た知識やスキルを社内で展開していきたいです。受講を終えたばかりですが、システム導入の目線で青写真は描けています。まずは、導入しやすい管理部門からスタートしたいと思います。営業部門だと、売上傳票をどのような形式にするか、何から着手できそうか、さまざまな視点で捉えながら活用の場を広げていきたいです。



遊佐 くらら様

## 有限会社メビウス・トーン (窓口担当者様：遊佐 くらら 様)

業種 サービス業

企業紹介 1991年に創業し、アニメーション及び映像に関する制作、企画及び販売までアニメーション制作に係る事業を展開。



## 受講講座

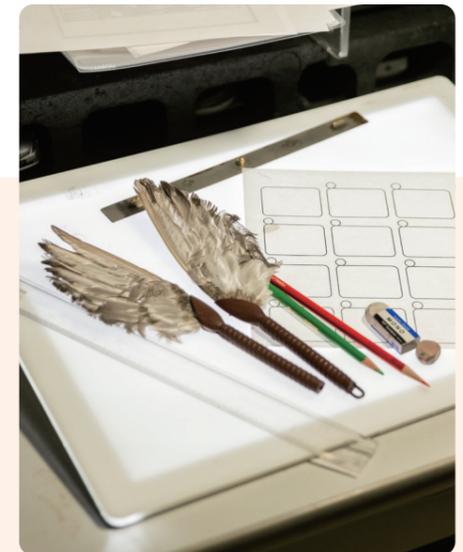
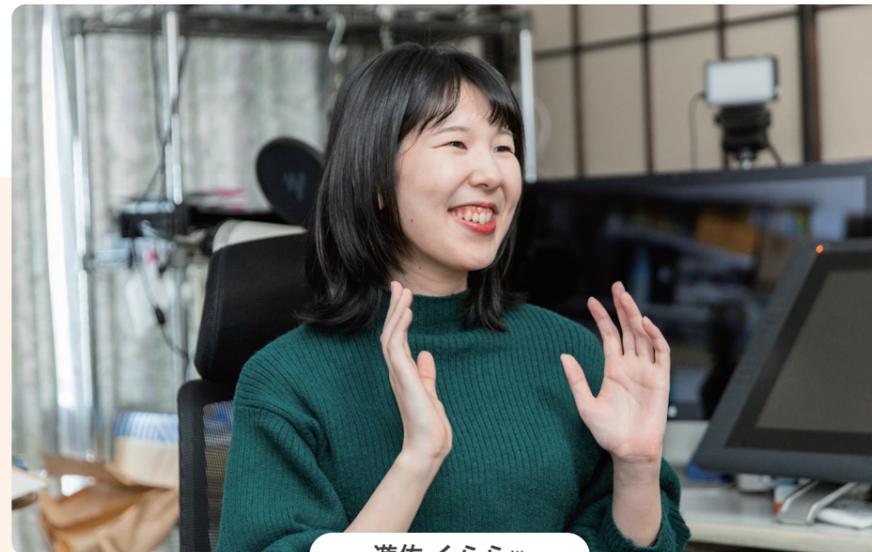
はじめてデータ分析に取り組むためのデータ分析基礎・企画・実践スキル習得講座 (統計検定データサイエンス基礎対応)

### 受講前

- ❗ アニメーション業界で数値やデータが可視化されていないと感じていた。
- ❗ 何をデジタル化できるか、そもそもの課題を見つけたかった。
- ❗ 書類や領収書などをデータで保存する選択肢がなかった。

### 受講後

- ✔ データ分析の過程を経験し、データ可視化の可能性を見出せた。
- ✔ 論理的な思考力が身につく、課題を捉える視点が養われた。
- ✔ Googleのツールを活用した文書管理が定着し始めた。



## 業務の数値化やデータの活用が後手に回っていた

当社は、私の父が代表取締役兼アニメーターで、母もアニメーターという家族経営の会社です。私は事務的なサポートや営業活動など、経営に関わる業務全般を担当しています。

アニメーション業界は、作画など制作面においてはデジタル化が進んでいますが、全体で見ると数字やデータとの結びつきが弱く感じていました。業界で注目されるものは、クリエイター自身やその作品など、目に見えるコンテンツが大半を占めています。だからこそ、私のような管理側の視点からアニメーション業界を数字やデータで捉えることで、何か違う見方ができるのではないかと考えていたのです。例えば、いつ、どのような傾向の作品を受注しているのか、その受注方法は何かかなどですね。まずは現状をデータとして可視化することで、この業界において何をデジタル化できるのか、そもそもの課題を探したいと感じていました。

## 家族経営の機動力を活かし、業界変革への一歩を踏み出す

大学時代に社会学を専攻していた経験から、データ分析の基礎的な知識はありましたが、実践的な手法までは身につけていませんでした。社会に出て実際のデータに触れる機会が増えたことで、より具体的な分析手法を学びたいと考えようになったのです。

当社は家族経営の小規模な会社ですが、だからこそ自由に動くことができます。大手のアニメーション制作会社は人数が多く、部署や役割が細分化されているため、データ分析の導入も限定的になりがちです。しかし私たちのような小規模の会社であれば、まずは自社内で実験的に取り組み、その結果を業界内で共有することで、新しい可能性を示すことができると考えました。また昨年10月には、新たに人材育成会社を立ち上げ、業界の課題解決に向けた取り組みも始めています。データ分析のスキルを身につけることで、人材育成の分野でも活用できると考えたことが、受講を決めた大きな理由でした。データ分析の講座は何種類かあって迷いましたが、事務局の面談で特徴を詳しく教えて頂いたおかげで自分に合った講座を選ぶことができました。

## データ分析はあくまで手段。論理的思考が身につく、視野が広がった

講座でデータ分析の過程を経験したことで、論理的な思考が身につきました。これまでは感覚的に捉えていた業務も、「この課題に必要なデータは何か」「どう分析すれば効率化できるか」といった視点で見られるようになったのです。また、取引先とのやり取りにおいても、将来の分析に活用できそうな情報を意識して聞き取るようになり、コミュニケーションの質が変わってきたと感じています。

また、データを集める目的や活用方法を常に意識しながら、日々の業務に取り組めるようになりました。これは私だけでなく両親も同様で、社内全体でもデータを意識した会話が増えてきています。

データ分析という言葉は聞くともっと難しく感じるかもしれませんが、実際、私も関数やその計算式の部分は苦手でしたが、講師の方が親しみやすい雰囲気でも教えてくださり、データ分析とは課題解決のための手段なのだとう理解できました。講座で学んだことを活かし、早速社内の情報共有の方法を見直しました。以前は紙の資料が中心でしたが、現在はGoogleのツールを活用し始めています。ただし、クリエイターの負担にならないよう、私が担当する部分から少しずつ取り入れ、業務の改善に繋がっています。

## クリエイターの功績を残すため、データ活用の土台作り注力していく

まずは社内のクリエイター2名をモデルケースに、データの活用や効率化を実践していきたいと考えています。デジタル化を急がずに、「こういうデータを残しておきたい」「この方が効率的」といった対話を重ねることで、納得感を持って進められています。

データ分析の講座はアニメーション業界に限らず、職人などデータ化しづらい職種の方ほど、受講をおすすめしたいです。忙しい業務の合間の受講はスケジュール調整が大変でしたが、事務局の方も手厚くサポートしてくれるので、安心してやり遂げることができました。クリエイターは作品制作に注力することが最優先です。人を大事にしている業界だからこそ、彼らの功績を後世に残していけるような土壌を作っていかなければなりません。その支えとなるものがデータ分析やデジタル化だと感じています。

# RESKILLING